

浄土宗方便山善立寺

香蓮

第五号

5

Echo 対談：住職と副住職

「想いを伝えられる場として」

竜嗣の仏教メモ

～ 喪中は仏壇開けておく？ 閉めておく？ ～

仏教と神道 「死」の捉え方

善立寺盆燈明会 ご協力ありがとうございました

なぜ現世での覚りを求めず、
極楽往生を願うのか

おてらからはじめよう
善立寺てらからプロジェクト

てら
から

謹賀新年

浄土宗方便山
善立寺

住職挨拶

新しき 年のはじめに

今年こそ、自然も人も明

おもうこと ひとつ心に

るさのある平穏な年になる

つとめて行かな

ことを心より祈念するもの

齋藤茂吉

です。

当山檀信徒の皆様が健康

新しい年を迎え、年頭の

で、家庭円満、幸多い年と

お慶びを申し上げます。

なりますよう祈念申し上げます。

昨年は度重なる災害に襲

ます。

われた日本列島でありまし

南無阿弥陀仏

た。信州も2月の大雪の被

平成二十七年 元旦

害が甚大でありました。

方便山善立寺

住職 小路祥永

副住職挨拶

あけましておめでとうござ

誌「香蓮」も改良を加え、

ざいます。旧年中は格別な

浄土の教えをより身近に感

ご高配を賜り、まことに有

じていただけるよう、精進

難く厚く御礼申し上げます。

致します。

早いもので浄土宗教師の

そして、お檀家の皆様に

資格を頂いてから、一年が

「善立寺の檀家でよかった」

経ちました。

と思っていただけのお寺づ

此の一年、お檀家の皆様

くりを進めて参りますの

にはお世話になりました。

で、今後共、ご指導ご鞭撻

法話等、皆様になさくお

のほどよろしくお願い致し

伝えることができず、自

ます。

分の至らなさを痛感する年

南無阿弥陀仏

でもありました。

平成二十七年 元旦

本年は法話をはじめ、本

方便山善立寺

副住職 小路竜嗣



第一回 善立寺盆燈明会

ご協力ありがとうございました

昨年8月16日、盆燈明会を初めて開催致しました。

皆様に書いて頂いた「願い」や「祈り」が境内に暖かな光を燈しました。

そんな光に誘われてか、多くの方にお参り頂きました。

本年も同日に開催致しますので、大勢の方のご参加をお待ちしております。

祈り、願うことから全ては始まる

仏教には「身語意^{しんごい}」という言葉があります。

心（意）で思ったことが言葉（語）となり行動（身）となる。

「祈り・願い」と言われ、

「さて何を書こう」

とふと思うこと。

全てはそこから始まります。

対談

想いを伝えられる場として

住職

副住職

僕達は仏様と皆様の仲介者

本号から副住職が様々な方と対談する、特集エコーを連載致します。題のエコーは仏教用語で功德を振り向ける意味の「回向^{えこう}」と、呼応・共鳴を意味する英語「echo^{エコー}」をかけました。記念すべき第一回目は当山、小路祥永住職との対談です。

現代におけるの仏教

副住職 核家族化、高齢化など、葬儀のあり方が変わりつつあります。住職は現代の葬儀についてどのようにお考えですか。

住職 まず葬儀式には2つの役割があります。

一つがご遺族が故人との別れを偲ぶ役割。

もう一つが、社会的に故人の死を周知する役割です。

現代では後者の「社会への死の周知」という意味合いが強く出て、遺族の気持ちがいやや後ろに置かれる傾向があるように思います。

最も大切なのは、ご遺族が故

人との別れを偲ぶ場である事です。ご遺族がどのような気持ちで葬儀に臨めるのか。

そういった想いを、私達お坊さんがいかに汲み取っていくのが大切になると思います。

そして、葬儀が故人に想いを伝えられる場となるようにできればと思っています。

副住職 亡くなってから葬儀まではご遺族も慌ただしく心休まらない期間であることは仕方ありません。

しかし、その中で私達お坊さんがご遺族に何をできるか、何をどうやって伝えていくかを考える必要があると思います。

一方で、近年ではお寺に対し、葬儀・法事以外の活動を期待する声もあります。

今、求められている事

住職 確かにそうですね。これまでお寺に求められていたのは故人や先祖の供養でした。

しかし、近年ではこれに加え、



小路祥永 62 歳
松本深志高校卒
立命館大学大学院修了（工学修士）
公立中学教諭として勤務
平成 19 年 善立寺住職となる
現在、塩尻市民生児童委員

ご遺族の悲しみをいかにして和らげるか、離別の悲しみをいかに乗り越えるかということのサポートを求められています。

副住職 最近、グリーンケア（悲嘆ケア）と呼ばれるものですね。

人間の根本的な悩みは何千年経つても変わらないように、生者必滅や愛別離苦など仏教には元々、グリーンケアにあたる教えが数多くあります。

そういった教えを分かりやすく伝えられたらなと考えています。寺報もその一環ですが。

住職 浄土宗で求めることは南無阿弥陀仏とお唱えする事。

そこは変わらないけれど、そこに向かう過程は時代に合わせ

て良いのではという事ね。まずもって、お檀家さんの立場で考える。そこからスタートしないといけないと思います。

仏様の仲介者として

副住職 私は在家出身なので、お坊さん側と遺族側の認識の差を常感じてます。

お坊さんになる前は、法事はお坊さんが主役で行うもので、参列者は見てるだけだと思ってました。

でも、お坊さんになってみると、本当はそうじゃない。主役は故人であり、施主の皆様だと。今では、お坊さんは仏様と皆様の間を取り持つ事が役割なの

かなと感じています。

皆様が称える念仏や焼香、それぞれの想いを極楽浄土まで届ける仲介者なのかなと。

住職 仏教は死んだ後の話で、今の生きている私達には関係ないと思われがち。でもそうではない。

副住職 浄土宗の良い所は、参列者全員で南無阿弥陀仏と称える事だと思っています。

参列者がただ法要を見ているだけでなく、自分も称え参加することで、阿弥陀様や故人との繋がりを感じてもらえればなと思っています。

善立寺らしさとは

副住職 今回対談をしてみて、住職とどんなお寺でありたいかという方向性が似ていて良かったです。

住職 先代の観山も屈託のない人柄で親しまれましたが、私達お坊さんの「うちのお寺はこうありたいな」という想いも大事

ですね。それが今の善立寺らしさに繋がっているのかと思います。

これからも、檀信徒の皆様が気軽ににお寺にいらっしやって、想いを伝えられるお寺でありたいなと思います。



小路竜嗣 29 歳 兵庫県出身
信州大学大学院修了（工学修士）
（株）リコーに入社し、開発者として勤務
退職後、大本山にて道場を受け
平成 25 年 増上寺にて加行成満
在家（一般家庭）出身として
仏教を分かりやすく伝えたいと努力中

喪中はお仏壇開けておく？閉めておく？

仏教と神道 「死」の捉え方の違い

Q. 「四十九日までの間、仏壇は閉めておくべきか」

お通夜やご葬儀の際、よく受ける質問です。

A. 結論から言うと、浄土宗の教義としては、喪中も開けておくべきです。

その理由を仏教、神道の「死」に対する捉え方から、ひも解きましよう。

まず、仏教では諸行無常、生者必滅というように、「死」は生きる者にとつて普遍的なことでありと捉えます。ですので、死は悲しいことではあっても、特別な事ではなく、「死」により穢れたり、祟ったりするとは考えません。

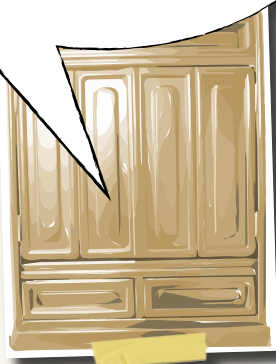
また、皆様の仏壇のご本尊である阿弥陀仏は、臨終の際、自らお迎えに来て、故人を極楽浄土まで連れて行って下さる仏様です。（こ

の事を阿弥陀仏の来迎引接と呼びます。）

今述べたことを念頭に置くと、なぜ仏壇を開けておくのかという、理由も分かってきます。

臨終の際、阿弥陀仏様が『さて、いよいよ、迎えに行こう』とした

阿弥陀仏ですが
迎えに来たので
開けていただけますか？



ところ、お家の玄関である仏壇の扉が閉まっていたのでは、迎えに来た阿弥陀様が困ってしまいます。

ですので、『阿弥陀様、どうぞお入り下さい』という気持ちを表

すために、お仏壇は開けておきます。

ではなぜ、このような理由があるのに、お仏壇を閉める風習があるのでしょうか。

これは神道の「神棚封じ」との混同が原因だと考えられます。

神道では「死」は「穢れ」とされ、神様が穢れないよう、神棚に白紙をかける「神棚封じ」を行います。特に野村地区は廃仏毀釈の影響で、神道の影響が色濃く残っています。

そのため、神棚に白紙をかける事と混同して、仏壇も閉める風習が強く残ったのだと考えられます。

お通夜や葬儀の際、会葬者のご指摘を考慮し、仏壇を閉めたままにされる場合も、「本当は開けた

死は「穢れ」
神様に死を見せないで



方がいけど、この地方の風習として」と考えて頂ければ幸いです。阿弥陀仏は、念仏の声するところ、どんな高い山もどんな深い海の底も超えて、どこへでもお迎えにいらつしやいます。仏壇の扉くらしい閉めていても、確実に極楽浄土へ連れて行って下さるので心配ございません。

また、このような風習が残っていることも、野村地区の大切な歴史ですので、当山も葬儀の際、「教義としては開ける方が良いが、風習として閉める」とお伝えしています。

死の捉え方の違いが分かると、「仏壇は閉める？神棚は？」という疑問もスッキリ分かりますね。

選択集より

問・なぜ浄土宗では現世での覺りを求めず、極樂往生を願うのか

答えて曰く

今の時代は末法で、五濁惡世である。ただ、浄土の一門のみ通入すべき路である。

法然上人著 選択本願念仏集 第一「聖道浄土二門編」より

浄土宗の考え方では、仏教を大きく二種類に分けます。

一つが現世での覺りを求める「覺りの仏教」。もう一つが、阿弥陀仏の救済により浄土に往生することを求める「救いの仏教」です。私達、浄土宗は後者の「救いの仏教」です。

ではなぜ、浄土宗では現世での覺りを求めないのか。

それは現代、現世において覺りを得る事が非常に難しいからです。理由は二つあります。

第一に、釈尊が亡くなってから遙かに時を経ているため。（末法の問題）

第二に、覺るための真理は非常

に奥深いのに対し、私達、普通の人々（凡夫）の理解がそれに及ばないためです。（凡夫の問題）

阿弥陀仏はそんな末法の私達を救うために、仏になりました。

そして、阿弥陀仏は極樂往生のための行に、老若男女誰もができる「南無阿弥陀仏」と称えるを選ばれました。

他宗との教義の優劣を比較して、どちらが優れているのかを選ぶものではありません。

今の世が末法であり、私達が普通の人間であることを自覺して、阿弥陀仏が私達のために用意してくださった極樂往生を願い、お念仏を行うのです。

ちょっと京都へ



勝林院 三千院の奥の奥 市内より気温が数度下がります

京都大原

勝林院

勝林院は一一八六年、宗祖法然上人が天台宗の招きにより、浄土宗の宗義について他宗の高僧と問答を行なったところでした。（大原問答）

法然上人は高僧達の質問に対し明確に答え、浄土の宗義である念仏の功德を説きました。集った多くの人々が心服し、三日三晩に及ぶ念仏を行ったと伝えられています。





3



2



1



4



5

1. 盆大施餓鬼法要 2. 盆燈明会 3. 二胡奏者野田祐子さん 4. 入山式 御法類・役員の皆様と 5. 手作りのしめ縄

平成26年下半年の善立寺

盆大施餓鬼法要

7月28日、当山最大の
年回法要である、盆施餓
鬼大法要が厳修されまし
た。今年から笹賀の慶林
寺様、女鳥羽の林昌寺様
が新住職として初めて随
喜していただきました。

松本平の浄土宗寺院も
世代交代の波がやってき
たようで、いつの間にか
当山住職も中堅になりま
した。(写真1)

盆燈明会

初開催の盆燈明会、詳
細は3ページに記載しま
したが、多くの方にお参
り頂きありがとうございます
ました。

大晦日にも行っており
ますので、今年は是非、
二年参りにお越しくださ
い。(写真2)

薬師観音祭・入山式

11月3日、雲ひとつ無
い秋晴れの日、薬師・観

音祭と副住職の入山式を
厳修致しました。

法要には、法類の正覚
院御住職(今井)、常照
寺御住職(村井)、東漸
寺御住職(洗馬)にご参
列いただきました。

(写真4)

法要後は一昨年好評
だった二胡奏者野田祐子
さんをお迎えしての奉納
コンサートを催しまし
た。(写真3)

多くの檀信徒の皆様
にご参列頂き、誠にあり
がとうございました。

しめ縄作り

12月28日、役員様と共
に新年を彩る、しめ縄作
りを行いました。最近で
はお店で買うのが一般的
ですが、善立寺は今でも
役員様の手作りです。役
員の皆様、寒い中の作
業、ありがとうございます
ました。(写真5)

平成27年の年忌法要

回忌	没年
1周忌	平成26年没
3回忌	平成25年没
7回忌	平成21年没
13回忌	平成15年没
17回忌	平成11年没
23回忌	平成5年没

連休等は法要のご希望が混雑致しますので、
お早めにお電話下さい。

善立寺 今後の行事予定

1月7日	修正会
1月25日	僧俗合同念仏会 於専称寺様
3月11日	仏教青年会募金 松本駅前
6月上旬	自死追悼法要 増上寺
7月中旬	関東地区棚経
7月28日	盆施餓鬼大法要
8月16日	第3回盆燈明会

各行事の詳細については、善立寺まで
お気軽にお問い合わせ下さい。